

2022 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生情報ビジネス専門学校北九州校の2022年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2023年 1月 31日

校 長 富田 博之

自己点検・評価責任者

校長代行 畠中 康夫

目 次

I	教育理念・教育目標（育成人材像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 7 -
	基準 1 教育理念、目的、育成人材像	- 7 -
	基準 2 学校運営	- 8 -
	基準 3 教育活動	- 13 -
	基準 4 学修成果	- 18 -
	基準 5 学生支援	- 20 -
	基準 6 教育環境	- 21 -
	基準 7 学生募集	- 23 -
	基準 8 財務	- 24 -
	基準 9 法令遵守	- 25 -
	基準 10 内部質保証	- 26 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 27 -
	基準 12 国際交流	- 28 -

評価結果

- S : 適切
- A : ほぼ適切
- B : やや不適切
- C : 不適切

I 教育理念・教育目標（育成人材像）

■教育理念

1. 深い専門知識と高い技術力を持ち、自己研鑽に励むことのできる人材を育成します。
2. 多様な価値観を受入れ、豊かな感性を伸ばし、自己成長できる人材を育成します。

■教育目標

【コンピュータシステム科】

IT業界でコンピュータエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部で活躍できる人材を育成する。

【システムエンジニア科】

IT業界で高い技術力を持ったエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、高度情報化社会の中で活躍できる人材を育成する。

【ゲームクリエイター科】

ゲーム開発に必要な各種プログラミング言語などの知識や技術を修得し、ゲーム業界やIT業界で長く活躍できる人材を育成する。

【オフィスビジネス科】

多様化するオフィス環境や医療現場で即戦力として対応できる事務スキルを持った人材となるための専門的技術・知識・検定資格を身に付け、様々なオフィスビジネスシーンで幅広く活躍できる人材を育成する。

【CGデザイン科】

クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を身につけ将来業界人としてプロ意識を持ち活躍できるマインドを持つ人材を育成する。

■3つのポリシー

(1) 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校は、“職業を通じて社会に貢献する産業人は私利私欲を捨て「無私」の心を持つものであらねばならない”という麻生塾創立以来の信念に基づき、高度な専門スキルと人間性を身につけ、業界の第一線で活躍する“自ら考え、自ら判断し、自ら行動する”人材を育成することを目指します。

このような教育理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた方々を積極的に受け入れます。

1. 感謝と思いやりの心を持ち、何事に対しても熱意と情熱をもって取り組むことができる方
2. 社会の一員として、職業を通じて世の中での発展に役立ちたいと考える方
3. 相手の立場や考え方の違いを理解し、その際を肯定的に受け止められる方

(2) 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

【コンピュータシステム科】

IT分野では、コンピュータのスペシャリストとして業界をリードしていくため、資格や技術力を有する人材が必要となります。コンピュータシステム科ではプログラムの基礎から応用までを幅広く学習、国家資格やベンダー資格を取得し、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部門で活躍できるエンジニアを育成することを目標に、授業科目を開設します。

また企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえた科目開設を実現します。

【システムエンジニア科】

IT分野では、コンピュータのスペシャリストとして業界をリードしていくため、資格や技術力を有する人材が必要となります。システムエンジニア科では情報処理技術を中心に、システム開発について基礎から応用まで幅広く学習し高度な知識や論理的思考を身につけ、国家資格やベンダー資格を取得、高いレベルのシステムエンジニアやプログラマを育成することを目標に、授業科目を開設します。

また企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえた科目開設を実現します。

【ゲームクリエイター科】

ゲーム業界において、開発者に求められることは企業によってさまざまではありますが、大きく3つ挙げることができます。

- ・高いゲーム開発技術力
- ・ゲームの面白さを分析する能力
- ・チーム制作において活躍できる人間力

以上の3つを学生が身につけるために必要な授業科目を開設します。

授業科目の開設にあたっては、日々変化するゲーム業界の技術や開発環境に対応するため、ゲーム業界の開発現場から情報を得ながら検討します。

【オフィスビジネス科】

(情報ビジネス専攻)

- ・実務能力を身につけることを目的とし、アプリケーション実技科目及び知識科目を設置します。
- ・多様化するオフィス環境において事務処理能力だけでなく総合力を持った人材を育成するための教養科目を設置します。
- ・即戦力のみならず豊かな人間性を持ったビジネススペシャリストの人材を育成するためのマナー科目を設置します。
- ・身につけた知識を活かし発展的な思考を身につけるためのプレゼンテーション科目などを設置します。
- ・科目の開設にあたっては、企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、社会ニーズを踏まえた科目開設を実現します。

(医療事務専攻)

- ・医療事務員に求められる専門教育と社会人教育で、即戦力となるスキルを習得します。
- ・意欲的な心構え・目標設定・チャレンジ精神について自ら考えるキャリア教育と教養教育により、人間力を高めます。
- ・医療現場の意見と評価を踏まえ、多様な医療機関と幅広い職種から実習先を選び体験する実践的な職業教育を実施します。

【CGデザイン科】

デザイン業界を含むクリエイティブ業界で顧客が求めるデザインができる人材、また企画、提案も含めた総合力を持った人材を養成します。主にグラフィックデザイン、Webデザイン、イラストレーション、CG映像制作の4分野を学習し、制作に応用するカリキュラムを設置します。

また、企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえたカリキュラムを実現します。

(3) ディプロマ・ポリシー

本校では、教育目標（人材育成像）を踏まえ、以下のような知識・態度・能力を備えた学生に対し、卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、それを活用する能力
2. 目的意識やチャレンジ精神を持ち、自ら積極的に行動をする能力
3. 協働の精神を備え、社会に貢献する能力

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 各種会議の整備・運営
- ② 各種書類・データの一元管理による業務効率化
- ③ 業務継続への役割分担による負荷分散（複数人化）

2. 取組み状況

- ① 円滑な情報共有ができる組織にするため、各種会議を整備し運営している。会議体として、全体会議、管理職会議、リーダー会議、学科会議があり、各学科における方針や運営の検討、資格・検定対策等の検討、法人全体の状況把握と決定事項の共有のため、定例開催している。
- ② 必要な情報やデータがどこにあるのか素早く把握できるようにするため、ファイル棚を整備し、全教職員で共有した。業務の効率化と教育の質を高めるためにデータや書類を更新・拡充している。
- ③ 校務分掌を整理するとともに（複数人化）、検定の実施担当者間の役割を分担した。資格検定の進捗状況管理についても役割分担し、目標達成のための対策を適宜話し合う機会を設けている。

3. 総括（成果と課題）

- ① 会議体の位置づけが明確にされたため、教職員が法人全体の状況を把握することが容易になった。また、決定事項についても迅速に対応できた。
学科会議は開催しているが、学科間の情報共有という点では十分とはいえない状況である。風通しをよくすることでより良い意見を活用する機会を増やしていく。
- ② 必要な情報やデータの有無を確認できるようになった。新入社員にも共有し、各々がいつでも、必要な時に必要なデータを見つけ出すことができるように、合理性の検証も含め、更新していく。
- ③ 業務・役割の属人化を回避し、複数人で役割を分担することで、効率よくミス無く業務を遂行できるようになった。今後も、校務分掌の担当者をローテーションしていくことで、教職員全員がどの役割についても理解できるようにしていく。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像についてはきちんと明文化され、学校グループのホームページに掲載されたものを通じ、各教職員から学生・保護者等・企業へ周知を図っている。また、学生便覧に掲載し全学生に配布しており、入学直後のオリエンテーションでも、法人の理念・学校教育理念・教育目的・育成人材像について周知している。さらに、GCB教育（グローバルシティズン・ベーシック、麻生塾独自のキャリア教育プログラム）によって、麻生塾生としてふさわしい態度や考え方の教育を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

・引き続きこれまでの活動を継続し、在校生への周知徹底を図る。また、新任の常勤・非常勤講師については、採用時に学科の教育目的や育成人材像について、個別で説明を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	定められた「法人の教育理念」を学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目標（育成人材像）を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【総括】

- ・理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営できている。

【課題】

- ・学期の途中に入職した教職員に対しての運営方針の周知・共有の方法については、明確に定めておらず、各部門の担当者の裁量による部分が見受けられる。

【今後の取組み】

- ・途中入職の教職員に対しては、学科会議、リーダーからの説明、チューター面談等で、運営方針について説明し、必要に応じて進捗状況についても共有する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目 2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【総括】

- ・事業計画を作成し、キックオフ会議にて全教職員に周知を図った。その中で学校組織図についても周知を行っている。執行状況は、責任者を通じて定例リーダー会議や月1回の全体会議において全員で確認している。
- ・校務分掌については担当者の複数人化を推進し、教職員の業務の幅を広げ業務・役割の属人化の解消を目指している。
- ・どちらも、学校のサーバーに保管しており、常に教職員が確認することが可能である。

【課題】

- ・学期の途中に入職した教職員に対して、事業計画の周知・共有の方法を明確に定めておらず、各部門の担当者の裁量による部分が見受けられる。

【今後の取組み】

- ・事業計画執行の進捗状況について、定期的な点検・確認を行い、全職員が状況を把握・共有できる体制づくりが必要である。資格検定の達成状況は、検定結果報告書などを用いて情報を共有する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。また、適正に執行されているか。	S

中項目 2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【総括】

- ・法人としての組織運営、意思決定機関については、適切に機能している。また、別途、組織の課題を迅速に合議する常任理事会も毎月開催している。さらに、各校・各部の校長代行、部長以上が合議、情報共有を行う部門長会議など各階層別での必要な会議体が設計され、開催されている。
- ・学校組織図に基づき各種会議の整備・運営を行っている。管理職会議、リーダー会議、学科会議など、各種会議体により定期的な情報共有を行い、学校・学科の方針等を認知し対応できる体制を整えている。また、月に1回、全教職員対象の全体会議を実施し、情報共有と状況確認を行っている。
- ・事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るために、上長は職員に期待する分野の研修等への参加を提案している。その提案を達成するため、各自、研修参加計画や能力開発プロセスを立て、目標設定シートに記し進捗状況を上長へ報告している。

【課題】

特に問題なし

【今後の取組み】

- ・定期的な開催だけでなく事態の重要度・緊急度に応じて柔軟に対応していくことで、更なる効率化に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-3	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目 2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【総括】

- ・雇用区分に対応した就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書が整備されている。また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。
- ・諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。
- ・採用活動に関しては採用管理システムの活用と採用規程および業務プロセスの整備により情報の一元管理や活動早期化、募集・選考の判断に対する適切な検証機能を有し、活動体制の強化が図られている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

引き続き変化する法人方針や多様化する働き方に対応できるよう人事制度の改善や制度再構築に伴う諸規程整備を続けていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目 2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【総括】

- ・学生の学籍や成績等の必要な情報については、麻生塾システムにて管理されており、教職員すべてが情報の共有化を行っている。
- ・コロナ禍により対面での会議の実施は難しいが、Microsoft Teams を使用した情報共有を行うことにより、スムーズに運営できる体制を整えている。また、授業でも Microsoft Teams を活用し、必要に応じてオンライン授業を実施している。

【課題】

- ・導入されている情報システムについては、当校で導入したものについては概要資料があるが、それ以外については本部管理となっている。
- ・Microsoft Teams や outlook など、情報共有ツールが複数あることが、情報共有するうえで混乱を招いている面がある。

【今後の取組み】

- ・情報共有を行う上で適切なツール選択を行うために、教職員の情報伝達手段の認識を統一することが必要である。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

- ・本校のディプロマ・ポリシーは学生便覧に掲載して教職員と学生に周知をしている。各学科のカリキュラム・ポリシーや授業の内容を示すシラバスはホームページで公開されており、詳細内容をインターネット上でだれでも確認することができる。
- ・年2回、連携企業、校長代行、教職員にて教育課程編成委員会を実施してカリキュラムの検討を行い、教育課程を定期的に見直し、向上を図っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・今後も、めまぐるしく変化を続ける業界に対応できるよう、業界の動向を注視し、必要に応じて各学科で検討、修正していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目標（育成人材像）に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標（育成人材像）に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

- ・学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。教育課程編成委員会などで企業等からご意見をいただき、業界ニーズにあわせた授業を実施するためにカリキュラムの一部を見直し、より充実した授業内容へと改善に努めている。
- ・カリキュラムの編成体制については、教育目標に沿ってカリキュラムの企画立案に取り組んでいる。授業シラバスについては、授業開始時に担当教員から学生に配付している。学校のホームページでも公開されており、インターネット上で確認することもできる。
- ・授業がシラバスに基づいて実施されていることを検証可能とするために、実施内容を授業報告書に記録している。非常勤講師の授業で記載が無い科目については、期首に周知したことで改善が見られたが、周知が不十分であったこともあり、授業の記録内容が十分ではないものが見受けられた。
- ・キャリア教育については、就職実務やGCB教育（グローバルシティズン・ベーシック、麻生塾独自のキャリア教育プログラム）等の授業により、社会的・職業的な自立に必要な基盤となる能力や態度について習得できるようにしている。

【課題】

- ・教育課程はカリキュラム・ポリシーに則り編成されているが、カリキュラムマップが更新されていない。
- ・授業報告書の記載内容が簡略すぎると思われるものがあるため、シラバスとおりに授業が実施されたかの検証が十分にできなかった。

【今後の取組み】

- ・カリキュラムの変更時は付随する資料の変更も行ったか、確認を行う。
- ・教育課程が体系化されたカリキュラムマップを3年計画で完成する。
- ・授業報告書への記録を徹底し、今後のカリキュラム改善に活かす。非常勤講師から口頭による授業内容や進度変更等の報告について、報告書への記載がないものがあれば、追記し、将来、活用できるような報告書の作成を目指す。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	A
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S

3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-7	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

- ・授業評価については、前期・後期ごとに在校生に「授業アンケート」を実施し、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業であるか否かの評価を実施している。
- ・授業科目の到達目標に対して授業方法が適切であるかについては、検定結果の進捗状況を把握することで理解度が不足している部分の対策について検討し改善を行った。

【課題】

- ・「授業アンケート」結果の確認だけに留まらず、第三者の視点からのフィードバック、結果分析を行うことで授業改善を図る必要がある。そのためには、より良い授業が運営につながる仕組みが不可欠である。

【今後の取組み】

- ・引き続き「授業アンケート」実施による評価結果に対する検証・改善活動を行う。授業スキルの向上に悩む教員に対しては、高評価の教員の授業を見学する機会や、経験豊かな教員による授業見学を実施して、フィードバックする体制を整える。
- ・授業ミニアンケート（授業開始初期の実施）を用いることで、学生の理解度を計りながら指導する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

- ・学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成した内容であり、学内で定められた成績評価基準に従い適切に評価を行っている。
- ・成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準を規程として定めている。また、それらは学生便覧などに明示している。以上の規程に基づき、年度末には卒業判定会議、進級判定会議を実施し卒業・進級判定をおこなっている。
- ・コロナ禍により医療現場実習において実施できないものが一部あったが、代替科目を実施することにより、成績評価や単位認定は問題なく行えている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

引き続き、規程に基づいて適切に行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

- ・法令に則り、資格・要件を備えた、分野ごとに必要な教員を確保し、教員の組織体制を整備している。
- ・教育力向上のための施策として、教員の専門性や指導力等の維持、資質・能力向上のために、教員は計画的に学内外で実施される研修へ参加し報告書を提出している。上長は報告書の内容をもって、今後の改善計画や担当業務を勘案することとしている。
- ・資質・能力向上のための研修参加は、分野によって差が生じており、計画的な取り組みになっていない。
- ・専門分野の能力向上については、企業と連携した研修までには至っていないが、業界従事者向けの研修に参加し、最新情報を入手し活用している。

【課題】

特になし

【今後の取り組み】

- ・外部機関の実施する研修の利用や学校法人麻生塾教育推進グループが主催する研修の機会を積極的に活用することで、教職員の能力向上を図る。
- ・企業のニーズによる新設科目「RPA 演習」**Robotic Process Automation** ロボテック・プロセス・オートメーション（事務系の定型作業を自動化・代行するツール）などに資するため、専門分野研修に参加する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質・能力向上のための方策を組織的、多面的に実施しているか。	A
3-5-4	教員に対して、専攻分野および指導力に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

- ・学生のキャリアプランに関しては、入学時より担任及び就職担当者が主体となって指導している。
- ・学科ごとに国家資格試験や各種検定、コンテストの入選目標数を年度当初に設定し、進捗状況や結果を共有している。その結果をもとに、各担当者・学科内にて振り返りを行い、次年度のカリキュラムや授業内容の改善に努めている。
- ・就職年次の担任と就職担当者が定期的に就職部会を行い、学生の就職状況や求人情報について情報共有を行ったうえで、支援方法について検討を行っている。
- ・退学率の軽減の取り組みとして、担任との個人ガイダンスを年に数回行うとともに、必要に応じて保護者等と情報を共有している。

【課題】

- ・特になし

【今後の取組み】

- ・業界就職率の向上を目標に、引き続き授業内容の改善など取り組みを行っていく。
- ・カリキュラムを変更した学科については、授業内容・シラバス等の有効性を注視・検証していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率およびコンテスト・コンペ入選数の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	S

中項目 4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【総括】

- ・卒業生の就業状況等については、就職担当職員が企業から聞き取りを行い、就職部会等にて教員に共有をおこなっている。また、卒業生から元担任への近況報告なども共有を行っている。
- ・卒業生の離職率の調査を行っている。

【課題】

- ・卒業生の離職率の調査は行えているが、改善の施策については企業から十分に聞き取りができなかった。

【今後の取組み】

- ・今後も引き続き、卒業生に関する企業からの意見や情報を事務局と教務で共有していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	S

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する学修支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

- ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように、学校全体でサポートする体制を整備している。一部の学科においては、遠隔授業／オンライン授業のために学内PCを貸し出している。
- ・遠隔授業／オンライン授業での学習環境構築を進めており、スライドや動画を使った教材を作成し、学生が自宅でいつでも学習できる環境を準備している。
- ・学生の就職支援として、担任教員が指導するほか、事務局もカウンセリングを行い、指導記録を作成し、担任と共有している。また、就職活動においては、事務局が独自の就職活動セミナーを実施しており、学生全体への支援を強化している。
- ・学生相談は、担任教員が日常的に対応することに加えて、状況に応じて学生が所属する学科内の教員も対応している。相談内容によっては保護者等の協力を仰ぎ、複数で対応する体制を整えている。
- ・奨学金等の経済的支援については、公平に情報提供し適切に運用している。
- ・学生の健康診断結果は適切に管理されており、留意すべき学生については既往症などの情報を教職員で確認できるように記録を整備している。
- ・卒業生へは、校友会を通して就職支援等を行っている。
- ・学生の課外活動は、近年、コロナ禍により制限される状況であった。

【課題】

- ・学生個々が抱える問題が複雑かつ多岐にわたることも多いため、学生支援における担任教員の時間的負担が増している。
- ・学生の課外活動については、実施の可能性に向けた十分な検討がされていない。

【今後の取組み】

- ・担任教員一人による学生の学修支援ではだけでなく、複数教員での学生指導のほかスクールカウンセラーや専門機関の支援を仰いでいく。
- ・学生の課外活動については、オンライン等を活用した活動の他、学生主体のサークル活動についても今後、検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者等との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外
5-1-10	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

- ・教育施設・設備の整備については、教育上の必要性に対応し、かつ教育運営に支障を生じさせないように、毎年各分野担当者へのヒアリングを実施している。その後精査し、必要に応じて教育施設・設備を整備、維持、管理している。
- ・教育機材と備品についても、数量不足や使用不備が発生しないように状況に応じて交換や追加購入を行っている。また図書コーナーに業界誌、就職活動参考図書等を配置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。機材・備品管理台帳も作成完了し、この台帳に基づいて機材・備品の管理できている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・機材・備品管理台帳については、必要に応じて引き続き更新していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

- ・学外実習やインターンシップを実施している学科では、実施要綱、マニュアルなどが整備され計画的に運用されている。
- ・学内の防災対策組織を編成しており、各種設備の定期点検票、危機管理マニュアルを整備し管理している。新型コロナウイルス感染拡大防止として、入館時の検温、手指消毒、換気の徹底、教室内の消毒、教職員・学生のマスク着用を義務づけた。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・引き続き安全管理体制を整備する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

- ・教育目標（育成人材像）に基づいて策定したアドミッション・ポリシーを募集要項及びホームページにて公表し、適正に募集活動を実施している。
- ・選抜方法は募集要項に明記し、オンラインと対面による実施体制を整え、適正に入学者選抜を行っている。
- ・校納金については適切に設定している。

【課題】

- ・特になし

【今後の取組み】

- ・適正に募集活動を継続するため、選抜方法、選抜基準等についても毎年見直しを図り、適正かつ公平な入学選抜の実施に努めていく。
- ・引き続き、妥当な校納金の設定であるか確認していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金（学生納付金）等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

- ・財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。
- ・学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による分析を必要に応じて行っている。分析の中で重要な差異が生じた場合等には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。
- ・私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。
- ・財務情報公開の体制を整備し、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

- ・専修学校設置基準、福岡県私立専修学校設置認可取扱基準を遵守した学内規程が規定されており、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。また、個人情報の保護、ハラスメント防止についての関係法令に基づき規程を定め、危機管理に関するマニュアル等を含めて、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・新任の教職員には、年度当初に研修時間を確保し、法令・専修学校設置基準研修や学則・学内規定研修を受講させる。また、関係法令に関する情報共有の継続と、教職員が研修会へ参加した場合は、学内へフィードバックする機会を設ける。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1-1	専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準10 内部質保証

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

- ・今年度は、教職員全員で関連分野の自己点検・評価を行い、実施結果に基づき業務等の改革・改善を行うことを基本方針とし、専門学校の質保証・向上への取り組みを行なっている。
- ・自己点検・評価結果については、企業や施設関係者、地域住民、保護者等、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者評価委員会で報告している。また、改善項目については、委員の意見を取り入れ、改善を行なっている。
- ・いずれも、その評価結果を自己点検・評価報告書と学校関係者評価報告書とにまとめホームページで公開している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・次年度に向け、評価項目のエビデンスの整備を行い、全教職員で共有していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

- ・学校運営に必要と判断した場合、積極的に関連団体へ加盟しており、現在は、北九州市産業経済局企業立地支援課と常に連携し、協議している。高校などに出向いての出張授業の実施、また、行政と連携した北九州高校生イラストコンテストを実施するなど学校の教育資源を活用した地域貢献活動を行っている。
- ・ボランティアイベントは青少年ボランティアステーション（北九州市）から定期的に紹介いただき、全学科、担任教員を通じて学生へ案内している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限が緩和され、北九州市主催の北九州市民マラソン（2023年2月19日開催予定）なども予定され、複数の学生たちがボランティアとして参加する予定である。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・従来通り関係団体との連携を継続していく。高等学校へは職業理解の一機会として出張授業等に力を入れていく。
- ・学生たちには社会貢献や地域貢献を目的として、引き続き青少年ボランティアステーション（北九州市）と協働しながらボランティア参加を啓発する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1 1 - 1 - 1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S

基準 1 2 国際交流

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

- ・現在、在籍する留学生 1 名の指導について、担任教員、事務局、学校法人麻生塾国際交流センターの協力を得て、相談体制を整備している。
- ・昨年度は世界的な感染リスクに鑑み、渡航留学プログラムを一時中断してオンライン留学制度に切り替えていたが、今年度は感染リスクの低減した一部の国において、渡航留学プログラムを再開した。留学プログラムについては、麻生専門学校グループ内の留学担当部門が説明会や学生向け・保護者等向けのオリエンテーションを実施し、必要に応じて個別面談・アドバイスをを行った。また、外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応するなど、海外留学全般に対する支援を適切に行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・留学生の就職に関する相談に対しても、事務局と連携をとり支援していく。
- ・留学生のアルバイト時間の管理等、基本的な法律やルールについて随時、確認・指導していく。また、就職年次については在留資格の変更指導などの適切にやっていく。
- ・引き続き、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S